

2021年11月3日(水・祝日)文化の日はいつも穏やかで快晴の日が多い。前回に引き続き霞ヶ浦畔を歩く。今日もほぼ湖を見ながら歩く事になるが、コースの途中から霞ヶ浦を離れ、内陸部にある陸平貝塚(国指定史跡)を訪ねてから、ゴール地点の古渡口まで歩き、バスで稲敷市江戸崎町にある旅館に宿泊する事にした。陸平貝塚は考古学の原点ともいわれ、明治時代日本人が初めて独力で発掘した、記念すべき場所となっている。



「⑰水の恵みを知るみち」地図 (首都圏自然歩道連絡協議会)



今日の鉄道最寄り下車駅は 常磐線土浦駅 8時41分着



土浦駅前から JR バス「江戸崎行」に乗車し、前回のゴール地点新屋敷バス停に到着



バス停前からすぐ道標に従って左折、霞ヶ浦畔に向かう



湖畔に出る。朝はすがすがしくて気持ち良い、今日も晴れた。遠望は筑波山と土浦の町



今日も朝から土手道を淡々と歩き始める、つまらないコースと云えばそれまでだが



陸側はレンコン畑が広がる。茨城県は蓮根生産高日本一だよ(2017年 29,500トン)



レンコンを掘っている。夫婦で泥田の中、体一杯浸かっての作業は、冷たくきつい



手で探り出して地下茎を切り取る、見ていると重労働に違いない



再び湖畔を歩く。「泥で霞ヶ浦が汚れる」と非難も出来ないか



新屋敷・清明川河口に水神宮があった



祠は朽ちてなくなり、石鳥居と新旧の水神様が祀られている



「木原漁港の水神宮」 湖に突き出たところにある



建屋の中に水神宮が祀られている。笹竹が鳥居に飾られているから、何か祈願があったのだろう



私もここまで来た証に一枚パチリ。



船溜まりに船はあるが、漁具が散らばり、漁をした跡がない



霞ヶ浦は最深部が9mで、平均水深が4mと浅い。透明度が60cmと言われているから泥沼だね。浚渫しているが追いつかないだろう



高台の台地は、稲刈りが終わった



この道は遥か水戸線の岩瀬駅から、旧筑波鉄道沿いに“筑波・霞ヶ浦りんりんロード”と名付けられている。土浦を經由して霞ヶ浦を一周している。総延長 180kmに達する壮大なサイクリングの道だ(霞ヶ浦一周は 140kmある)



私たちが歩く道も、所々道標がきちんと案内してくれるから、安心して歩ける



左側の柵は養魚池となっている。小魚類を育てているが、強い農薬汚染のために稚魚が育たない



牛込漁港から霞ヶ浦を離れて、内陸にある「陸平貝塚」(おかだいら)を訪ねてみよう



関東ふれあいの道スから離れて、山間の道を歩く。湖畔ばかり歩いてもつまらないよ



集落の中を通り抜けて、標高 27mの台地に向かう。久しぶりに緑のトンネルを抜けるのも気持ち良いね



「陸平貝塚(国指定史跡)」(おかだいらかいずか)明治 12 年(1879)東京大学学生の佐々木忠二郎氏と飯島魁氏により、日本人だけによる、我が国最初の学術調査が行われた。



二人は、明治 10 年東京大田区にある大森貝塚発掘で有名な、エドワード・モースの教え子である。この場所は、のちに「日本考古学発祥の地」として研究史上名を留める事となる



標高 27mの島状台地に位置し東西 200m、南北 150mの広さに 8 か所の貝塚が分布する、我が国屈指の大貝塚となっている



縄文時代早期から晩期(約 8,000 年~3,000 年)までの長い期間にわたって形成された



ハマグリ、オキシジミ等の貝類、クロダイ、スズキ、ウナギ等の魚類、鹿、猪等の獣骨、土器・石器等が出土している。これら発掘品は東京大学に保存され、1975 年国の重要文化財に指定された



貝塚は地域住民の不屈な努力により、数々の開発計画から守られ、8千年前そのままに手を加えることなく、自然環境が最も良好な状態で残されている (稲敷市美浦村教育委員会案内板)



15:15 今日のゴール地点、古渡口(ふつとぐち)バス停に着く、日が暮れかけてきた



江戸崎バスターミナルに到着



バス停から歩いて5分、今宵の宿舎「飯野屋旅館」に到着。ここは稲敷市江戸崎の田圃の中の町、こんな町に旅館があるとは驚き！ しかし納得。昔から霞ヶ浦---利根川---江戸崎---江戸と繋がる水運の拠点なのでこの項完

[参考タイム] 土浦駅 (9 : 10) → 新屋敷バス停 (9 : 30) → 木原水神宮 (10 : 40-10 : 45) → 牛込漁港 (11 : 50-12 : 20 昼) → 陸平貝塚 (12 : 55-13 : 35) → 古渡口バス停 (15 : 15-16 : 12) → 江戸崎バスターミナル (16 : 30)

「関東ふれあいの道 (茨城) ⑩水の恵みと水田地帯のみち」に続く